

# 日本民家園だより

特集 わら

vol. 97

企画展「東北の手仕事 I わら」  
2023年1月4日(水) ~ 5月28日(日)





移築前の工藤家（岩手県紫波町）



移築前の菅原家（山形県鶴岡市）

## 東北の手仕事 I わら

### ●はじめに

日本民家園「東北の村」エリアには2棟の古民家が移築されています。

旧菅原家住宅（神奈川県指定重要文化財）は出羽三山のふもと、山形県鶴岡市松沢（旧東田川郡朝日村）から移築されました。10数軒が身を寄せ合うように暮らしてきたこの集落は、毎年4mほども雪の積もる豪雪地帯にあり、菅原家は稲作のほか養蚕や炭

焼きなどを営んでいました。

一方、旧工藤家住宅（国指定重要文化財）は岩手県紫波郡紫波町舟久保から移築されました。雪こそ少ないものの、米の不作による飢饉も経験してきた寒さの厳しい土地であり、工藤家は葉煙草はたばこの栽培を中心とする畑作と養蚕で暮らしを立ててきました。

このように、住む者に過酷な暮らしを強いた東北の長い冬は、しかし同時に手間と熟練を要する美しい手仕事を生み出しました。特に、素材の保温性を活かした寒冷地ならではの多彩なわら製品と、生地によっては繊維の採取からはじめ、自ら仕立てる布製品には、日々の生活が育んだ素朴な造形美を見ることができます。

当園ではこうした東北の風土が生んだ手仕事を「わら」と「布」の2部に分けて展示いたします。これら無名の人々の仕事を通して、荒々しい自然のなかで営まれた暮らしに思いを馳せていただければ幸いです。



(上) ツマゴ 岩手県紫波町 (下) ジンベ 山形県鶴岡市 爪先の防寒用



オバナボウシ 山形県鶴岡市



## ● 「わら」とは

第1部の今回は、わらの手仕事をご紹介します。「わら」とは、イネ科の植物の主にくきの部分を乾燥させたものを言います。したがって、この言葉にはさまざまな植物が含まれますが、米を主食としてきた私たちにとって、稲わらが最も身近だったのは言うまでもありません。

わらは入手しやすかったことに加え、通気性・保温性・緩衝性などすぐれた性質を備えていることから、民家の暮らしのなかでさまざまな役割を果たしてきました。土壁にはわらが練り込んであるのを見ることができます。繊維を加えることで崩れにくくなるのです。<sup>うまや</sup>厩ではエサとして使われたほか、地面に敷き込んであるのを見ることができます。この敷きわらは肥料として使われました。寝間ではわら<sup>ぶとん</sup>布団を見ることができます。中身はときどき入れ替えましたが、非常に温かいものだったそうです。

このようにわらには多くの使い道があり



バンドリ 山形県鶴岡市 荷を負う際の背当て

ましたが、中でも重要だったのは、わら細工の材料としての用途でしょう。わらはやわらかく、加工もしやすいことから、老若男女誰でもわら細工に携わることができました。その結果、<sup>はきもの</sup>履物から雨具まで、私たちの日常を支える多くの生活用具がこの米の副産物から生まれることになったのです。しかも、使えなくなれば肥料として土に帰すこともできました。現代の言葉で言えば、資源の循環を促す環境にやさしい素材、それがわらだったのです。

## ● よける・はこぶ・いのる

保温性にすぐれ、さらには通気性をも備えたわらは、雨や雪、そして寒さを除ける素材としてさまざまな用途に用いられてきました。たとえば、雨具として利用されたものにミノやミノボウシがあります。素材そのものが軽いため、作業時にレインコートや雨合羽のように使用されました。また、雪や寒さから足を守るため冬の履物類にも利用されました。ひざ下まで覆うフカグツやユキグツ。山での労働や遠出用に使われたツマガケグツやハバキ。大雪のなか



ワラオオテンゴ 山形県鶴岡市



を歩いたり、雪道を踏み固めたりする際、カンジキとともに使われたのもフカグツでした。人々はわらの特性を熟知し、自分たちの身体を厳しい環境から守るため、この身近な素材を最大限活用したのです。

軽量で緩衝性の高いわらは運搬用具にも多用されました。たとえば背負いかゴやショイコ（背負子）には、背負い縄の肩当て部分にわらが使われているのを見ることができます。厚く編むことで耐久性を持たせるとともに、わらが持つ緩衝性、すなわち弾力があってやわらかいクッションとしての性質を活かしているのです。軽量であることは、物を運ぶときに有利であるだけでなく、運ばないときにも有利でした。荷が空のとき、運び手の負担にならないからです。同様に、素材がしなやかなため、

ある程度たたむことができるのもわらが運搬用具に用いられた理由の一つでしょう。使わないときはたたんで保管でき、使うときには大きく拡げて



ツナギウマ 岩手県紫波町

旧暦6月に行われたウマッコツナギという行事で田んぼのあぜなどに供えました

物を包み込むことができるのです。タワラやカマスが代表例ですが、さまざまな物の運搬に使用されたテング（手籠）もこうした特性を活用したものと言えるでしょう。

わらは日常生活だけでなく、行事の行われる特別な日にも使われました。たとえば、岩手県の工藤家では「大黒様の年越し」という行事を毎年12月9日に行い、その際、わらで作った皿に供え物を入れました。また、大切に飼っていた馬が死んだときは、裏山の小高いところに葬り、埋め跡にわらで作った馬を立てて煮豆を供えました。

わらは特別な場所にも使われました。神棚や神社にしめ縄なわが掛けられているのは今でも目にする機会は少なくありません。これは神聖な場所と日常的な場所を仕切る役割を持っていました。こうしたしめ縄がかつては村境に掛けられる例もありましたが、これは外からの災いわざわを防ぐ役割を持っていました。わらには呪力じゅりよくがあると考えられ、神聖な意味が込められていたのです。



(左) ヒョウタン (右) カボチャ 岩手県紫波町 小正月に作物の豊作を祈って吊るしました

## 日本民家園だより vol.97

発行：令和5（2023）年1月4日

川崎市立日本民家園 URL <https://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区柞形7-1-1 TEL 044-922-2181 FAX 044-934-8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [11月～2月] 9時30分～16時30分 [3月～10月] 9時30分～17時（入園は閉園30分前まで）

休園日 毎週月曜日（祝日の場合は開園）、祝日の翌日（土日・祝日の場合は開園）、年末年始 ※臨時休園あり

※令和5年4月1日より入園料を改定させていただくことになりました。詳しくは公式サイトでご確認ください。

